



支援3校目キリチョンコ完成!

スタッフも出席し盛大に開校式 (3/1)

3月1日、セカンドハンドの支援により建設されたカンボジア南部のタケオ州
キリチョンコ小学校の開校式にセカンドハンドから8人が出席しました。

朝6時半、プノンペンの軍飛行場に到着。VIPの到着を待って、政府が用意した2機のヘリコプターに乗り込みました。迷彩色の大きな軍用ヘリの中にはプラスチックの簡易イスが並べられていてびっくり。シートベルトもありません。上空から見るカンボジアの大地は茶色に渴いて、乾季特有の色を見せています。ちょっとスリリングな気分も味わいましたが、フライトは快適そのもの。約40分でキリチョンコ村に到着しました。

学校では生徒や周辺の住民など約3,500人が出迎えてくれました。8人は完成したばかりの校舎を正面に臨む席に案内されました。クリーム色の上品な校舎の美しさにみんなはちょっと感動。お坊さんのお祈りで式は始まり、地元地区長からのウエルカムスピーチに続き、セカンドハンドの新田代表、日本大使館の山本公使、主賓の



上品なクリーム色の建物は落ち着いた雰囲気がとても素敵でした。美しい学校です

内閣省大臣ソックアン閣下とスピーチが続きました。

セカンドハンドはキリチョンコ小学校に12教室の建設支援を行う予定ですが、その1期分として、昨年秋から6教室1棟を着工しました。引き続き6教室1棟分の建設を行う予定ですが、すぐに2校舎目の建設に入ると村の

負担も大きい、との申し出があり、来年以降に残り1棟の建設に取りかかることにしました。

この席上、カンボジア政府からセカンドハンドの支援活動を賛える国家功労メダルが送られました。

式典の後、新しい教室に座った生徒たちに文房具を一つずつ手渡しました。新品の筆箱とシャープペンシル、消しゴムは福岡のある会社から(株)夢や様を通して提供してもらったもので、シャープペンシルの芯(11万4,500円分)

は高松市の異業種交流グループ池田塾がチャリティーコンサートを開いて提供してくれたものです。

文房具セットはキリチョンコの全生徒と、セカンドハンドの支援2校目のオットンポー小学校全生徒合わせて1,162名分を用意しました。また、高松市内で集めたピアノをキリチョンコに5台、オットンポーに3台、支援一校目のトマイに3台、孤児院に2台を寄贈しました。運搬に際しては全日空、タイ航空にも協力して頂きました。

皆様のご協力でまたひとつカンボジアに学校が出来ました。
笑顔で学校に通う子供たちからも感謝状が届いています。これからもみなさんの力をお貸し下さい。ありがとうございました。

第12号の内容

- (2P) 識字リソースセンター完成
- (3P) カンボジアから感謝状
- (4~7P) スタディーツアーレポート
- (8P) セール・総会のご案内

CWDA 識字リソースセンター完成

プノンペン



識字リソースセンターの外観

セカンドハンドの支援で昨年着工した識字リソースセンター（LRC）は今年1月に完成、フン・セン第2首相の主催でオープニングセレモニーが開催されました。席上、セカンドハンドに対して感謝状と国家復興功労メダルが授与されました。

LRCはカンボジアの女性の自立を支援するNGO「CWDA」の敷地内に建設され、3F建てのビルの2F部分が識字リソースセンターとなります。ミーティングルームがあり、そこで識字教育に携わる団体が月に一回、識字教育のレベル向上のためお互いの事例

報告や情報交換などを行っています。また閲覧室には識字の教科書や辞書、教育や心理学などの専門書も並び、まだ不十分とはいえ、識字や教育に関してはカンボジア国内で最も充実した蔵書とされています。

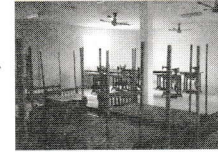
1Fには、タイプライターやビジネスコースの研修が受けられる教室が設けられ、女性たちが実習を受けています。3F部分は売春をさせられていた女性の更正施設として準備され、ベッドが並んでいました。



1 F



2 F



3 F

SECOND
HAND

セカンドハンドの皆様へ



識字リソースセンターを見学した日、夕食会に招待され、その席でセカンドハンドに対して数々の賞賛の言葉を頂きました。翌日、改めてCWDA代表のセレイ・パルさんから手紙を頂きました。

あなたがカンボジアを出発するまでに、どうしても伝えなかったのでこの手紙を書くことにしました。

あなたに昨日言った言葉は決してお世辞ではありません。私たちはセカンドハンドのことを、今まで関係した機関（団体）の中で一番優れている団体だと言いました。私たちは開発援助に関わる人間として全世界からの支援者、国際的な団体（宗教関係も含めて）と常にコンタクトを持っています。その知識を土台にそう判断しました。

残念ながら、世界の支援と開発はあまりにも政治的、経済的なものに巻き込まれてしまっています。その上にかなりのお金がかからむ雇用の市場があり、本当の基本である人道主義的、利他的な側面が薄くなっているか、場合によっては完全になくなっています。しかし、あなたとセカンドハンドに関わる人達にお会いして、あなた達の中に私たちが目標とする性質を見いだしました。それは、あなたがカンボジアの人々の絶望的な状況に対する心からの関心と相手の立場に立って考える姿勢を持っていることです。あなたたちに会って、私たちの人類に対する希望と人間を信じる心を取り戻すことができました。

カンボジアの人達に直接還元される支援のお金が如何に届いていないか、例えば、場合によっては総予算の4%しか支援を必要とする人達に届かないことがあります。残念ですが、これが支援の現実です。その上に多くの援助は条件付きであり、その条件のほとんどが支援を受ける側ではなく支援する側の利益になるように出来ています。たとえばアメリカは様々なプロジェクトに資金を与えますが、多くの場合、機械や物資の購入はアメリカ製、スタッフはアメリカ人という条件がついています。結果的に資金の40%がアメリカ経済の援助になり、援助を必要とするカンボジアの貧しい人達には届きません。これはアメリカだけの傾向ではありません。

どうして私たちがセカンドハンドを尊敬し、大事にしたいと思うのか、これまでの説明で分かって頂けたと思います。あなた達の団体は、カンボジアで本当に支援を必要としている人達にとって、専門の開発支援団体よりも本当の意味で役に立つことが多いのです。心から奨励したい活動です。

最後に、私たちはセカンドハンドに拍手を送り、永遠に心の中に留めておきたいと思っています。私たちだけでなく、あなた達の支援によって助けられたカンボジアの女性と子供達も同様でしょう。

セカンドハンドのような開発援助のモデルが世界にもっと多くなれば、貧困に喘ぐ状況をもっと効率的、効果的、現実的に改善できると私たちは確信しています。

私たちはあなた達に他の開発団体の指導者となり、模範となる役割を与えるべきだと思います。貴方達から他の団体はいいことをたくさん学べるはずです。

どうか私たちとの交流を続けて下さい。絶対、あなた方のことは忘れません。

CWDAを代表して。キエン・セレイ・パル



新田代表に功労メダルを贈るパルさん（右）





カンボジアから手紙が届きました



キリチョンコ小学校建設に対してのお礼状が届きました！
その中から先生と6年生の生徒の手紙を紹介します。



キリチョンコでの調印式



セカンドハンドに贈られた
国家復興功労メダル2個



贈呈された感謝状

当識字センターの建設に
対しての多大なるご協力と
カンボジアの復興に対する
貢献に対してカンボジア政
府から感謝の気持ちを表し
た感謝状とメダルを贈らせ
て頂きます。

第1首相 ウン・フォット
第2首相 フン・セン

キリチョンコ小学校
ユック・チュルン先生（42歳・男性）

す。この校舎には生徒数に見合った教室がありませんでした。私たちはいつも年々増えていく生徒の問題と向き合ってきました。

しかし幸いなことに、セカンドハンドがこの不足している教室の問題など私たちの困難な状況を知り、1997年にすてきな校舎に6つの教室、そして教室の備品すべて、3室のトイレ、国旗掲揚ポールの建設を援助して下さいました。この素晴らしい寄付は私たちの心を励まし、この学校に多大なる元気を与えてくれました。

14年以上この学校で教えています。その間多くの困難な問題に出くわしました。私たちの校舎は以前、古い建物から資材をとり、建築技術もないままに建てたもので



キリチョンコ小学校の全景

しかし、私にはこのとても有難い援助に対して何もお返しするものがありません。ただ、私の両手と10本の指を祈りの言葉と共に掲げ、セカンドハンドとすべてのスタッフの皆様のために神様にお祈りをするだけです。いつも幸せであり、ご健康であるように、そしてカンボジアでの学校建設への支援をこれからも長く順調に行えますようにと。



同小6年 マン・シター君

僕はとても素晴らしい校舎をプレゼントして下さいました。セカンドハンドと母なる国日本に心から深い感謝の気持ちを表したいと思います。私たちに幸せと希望を運んでくれました。

僕がこの学校で学び始めた頃、とても古い校舎がひとつ、中はたくさんの生徒であふれて座る席がない状態でした。だから、僕たちは母なる国日本とセカンドハンドがこの新しい校舎のために、たくさんの経費をかけて作って下さったことを忘れません。

とてもきれいな校舎の新しい教室で勉強できるということは、僕や他の生徒達にとってもエキサイティングなことです。これからすべての生徒達にとってもいい教育と明るい未来があることでしょう。

最後に母なる国日本、特にセカンドハンドとスタッフの皆様にありがとうございますと言いたいです。そして皆様のご健康をお祈りすると共にこれからも続けて私たちの学校やカンボジアの学校を助けてください。

ありがとうございました。



この他に以下の方々よりお礼状を頂きました。＜生徒の父母を代表＞＜キリボン郡の教育スタッフ＞＜キリチョンコ小学校の先生代表＞＜キリチョンコ小学校建設委員会＞



Special Thanks

富士店舗様、FAN et FAN 堀様、ファン岡岡様、弘陽商会様、池田塾様（チャリティーコンサートの売上でカンボジアの子供への文具を購入しました）、（株）夢や様（岡山OPA店開店の協力）、オルガン針（株）様（ミシン針をカンボジアへ提供）、全日空様・タイ航空様（カンボジアへの文具輸送の協力）、旭通信社様（忘年会でのチャリティーオークション売上金の寄付）、千葉県 米澤様（子供達がお年玉の一部を寄付）、花園小学校の皆様（お手伝い＆折鶴をありがとう）、香川大学ボランティア講座の受講生の皆様（倉庫作業助かりました）、津田中学校生徒会の皆様（高松店の大掃除と冬のまつりでの協力）、高松冬のまつり事務局様（中央公園でバザーをさせて頂きました）、香川県仏教青年会様（御寄付ありがとうございます）、高松市消費者団体連絡協議会様（バザーの売上金の寄付）、夢おいしネットワーク様（活動展への参加協力）、アイニチ株式会社様（ニュースレター製作協力）、佐川急便様、その他たくさんの皆様のお力添え、そして商品のご提供ありがとうございます。このニュースレターの送付をもって御礼状と代えさせて頂きます。

Thank you very much !



✈ セカンドハンド・スタディー・ツアー

2月23日 高松空港出発(10日間)

約15万円(全額自己負担)

カンボジア・ツアー日誌から

2/24 カンボジアに到着。すぐにシエムレアップに移動。夕日に映えるアンコールワットを見学。生活している人のテンポがやっぱり日本とは違う。移動の連続で皆さんバテているかと思ったら、夕食はバリバリ食べていた。(G)

2/25 一日中、アンコール遺跡群の見学。

2/26 船でシエムレアップからバタンバンへ移動。(所要9時間) おしりの痛さも、日の強さも、トイレの不便も水上生活者の暮らしぶりが見られる興奮にはかなわなかった。(S)

2/27 孤児院にお邪魔する。親がいないというだけでなく、様々な事情の子供たちが収容されている。学校に行きたがらないが絵を描くのがとても好きという子供がいた。やさしい、きれいな絵を描いていた。この子の絵が5/31の丸亀町レッツで行われるセカンドハンド写真展で展示される。皆さん観てください! 夜は子供たちとディスコパーティー。(N)

2/28 プノンペンの虐殺博物館に行く。すごくショックだった。日本にいと、世界史を勉強しても、ニュースで世界中で起きていることを知っても、全く自分が地球上で起きていることを実感することはなかった。どこかで割り切って物事をみることしか、しなかったのだと思う。現実に拷問を受けた部屋に立ったとき、「人間ってアホや」って思った。人間ってそんな風に死ぬもんじゃ無いのに、寂しすぎる。一人一人の写真は怖かったし、人々の目の奥の感情につぶされる思いがした。(G)

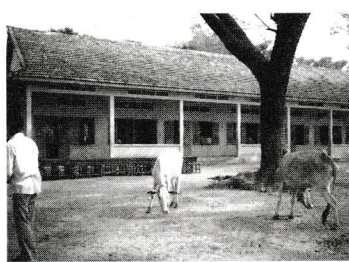
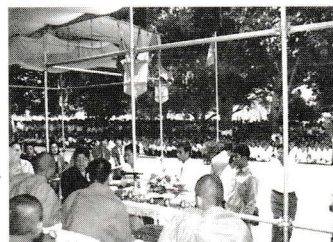
3/1 開校式のスピーチは正直言って退屈であった。何言っているのかわからない上、閣下のスピーチが1時間と長かったからである。(S)

3/2 NGO団体を訪問する。CWDA、ユネスコなどで働くすばらしい女性たちにお会いした。人は自分自身の信念やイデオロギー、あるいは研究の為とはいえ、こんなにも人の為に一生懸命に生きていけるのか、と頭が下がる。(N)

3/3 セカンドハンド支援、1校目のトマイ小学校を訪問する。校舎に傷みが出始めている。セカンドハンドのスタッフが来ると聞いた村の人たちが、集まって手料理をご馳走してくれた。(G)

3/4 プノンペン市内観光をしてバンコクへ

SECOND
HAND



胸キュンのカンボジア 嶋崎 種子



キリチョンコ小学校開校式当日、朝早くより女性スタッフ全員おめかしをして、ホテルを出発。軍用機に乗り込み40分と少し。最高のフライトでした。沢山の子供たち、村人たちの出迎えを受け、本当にセカンドハンドのスタッフをしていて良かった、ツアーに参加して良かった！ と一人しみじみと考えながら歩いていました。小学校建設への先生からの御礼状に「私たちには貴方達に何も差し上げる物がありません。私に出来る精一杯のこととして、この10本の指と2つの手で貴方達の幸せをお祈りします」とあり、とても感激しました。



セカンドハンド支援1校目のトマイ小学校では、短い時間でしたが、各教室を回り、子供達に質問をしました。1年生のクラスには自分の年齢を知らない子供もいるんです。4～5年生になるとしっかりしていて、全員が「勉強が好き」と答え、家では牛の世話、水汲みと親を助けて何らかの手伝いをしています。「家の手伝いはイヤだと思わないの？」との質問に、男の子が「僕は家族のために働くことがとても幸せです。当然だから何も辛いことはありません」と答えてくれました。

衣類をお土産に孤児院にも行きまして渡しましたがピッタリサイズの子供達のものもあり、衣類をお土産に持つ

夜にもう一度訪ねたら、クメールダワイいしぐさで無邪気に踊る子供達。の輪に加わりました。全員参加する踊しよりになりながら、時間がたつのも



た。シャツ、ズボンなどを一人一人達の嬉しそうな顔！ 少しサイズで行く事の難しさを感じました。ンスで迎えられました。とてもか途中で子供達に手を引かれ、踊りりは次から次と曲が続き、汗びっ忘れて楽しみました。でも、引き上げなのに何だかとても寂しく、胸

その夜は気分がたかぶり、眠れませんでした。「きっと子供たちは小さな胸で興奮して、眠れなかったのではないか」と思うだけで…。でも良い思い出になりました。私たちにとっては、心と心の触れ合いができたと思います。たくましく生きる姿を見て、私もまたセカンドハンドで頑張るエネルギーを貰いました。

ありがとう！ 女神達。最後にアンコールワットの日の出は本当に最高でした。なんだか自然に手を合わせていました。



笑顔の子供たちがいた 後藤 創子



カンボジアに着いて、はじめ風景とか新鮮に感じて、見ることに驚いていました。アンコールワットとか人の生活している様子。好きだったのは夜になって川辺にご飯をいって晩ご飯とおしゃべりを楽しむ人の開放的な雰囲気や、空が球体に見えたこと。孤児院の子供たちがしなやかに踊るダンスと強いまなざし。働く人ーボートの船頭さん。地雷で障害を受けた人達、シクロ、モトの運転手さん。とても小さな子供も、お土産を売って働い



リコさん(ASAC代表)が言っていたことも想いちは自分より大きな牛を育てて自信をつけていく、てもいなくてもいいって思ってるでしょ」。思わず

カンボジアの内戦の愚かさや恐ろしさや残酷さに行き初めて実感しました。太陽の光が暖かく差し込んでいるのと対照的に、ありのままにボルボト派の行為と結果を展示してあるそこがあまりにも静かで、とても悲しくなりました。そうして再びカンボジアの人達を見ると驚くことがあります。生きているエネルギーというか、たくましさや改めて気づいたんだと思います。

私がカンボジアに行って感じた明るさに対する驚きをこれから決して忘れたくありません。人の笑顔が何よりもサイコーだったからです。



今回のスタディーツアーでは現地のNGOを支える多くの人と出会い、現場の生の声を聞くことができ、国際協力や援助の現状や課題を考えるいい勉強になった。

プノンペンで女性支援団体、CWDAを主宰するセレイ・パルさんは、確かに都市の見た目はよくなっているが、ギャップは広がる一方。内戦や地雷で夫を失った多くの女性が家族のために働かなくてはならない。CWDAでは織物、ハンドクラフト、オフィスワークのトレーニングを行っている。子供を学校に行かせるのにもお金がかかるため、男の子が優先で女の子はこれまで通り働いている。福祉が行き渡ってなく抱えている問題は複雑、と話す。「セカンドハンドは援助先のことを理解して支援してくれる、ナンバー1のスポンサーね」。昨年11月にセカンドハンドが建設費を支援した識字リソースセンターが完成し、多くの女性がトレーニングに励んでいた。女性の自立のためのプロジェクトが着実に実を結び始めている。最後の日、マリコさん(ASAC代表)に誘われてディスコに行った。「たまには息抜きしなきゃ」。ひととき大きな体がリズムに合わせて弾む。本当に楽しそうに踊っている。「インターナショナルになるためには、英語とダンスよ」。帰り際にそういった言葉が忘れられない。少しは勉強しなさいよ、それは私への叱咤激励とまたカンボジアにいらっしやいよという彼女のメッセージだったと思っている。



戦争さえなければ 高杉秀志

本一冊の浅い知識でツアーに参加する。2月24日首都プノンペン到着。空港で何人かの銃を持った兵士を見かけた。途上国ではよく見る光景で、緊迫感は感じられないが、まだ安定していない政情を感じる。

すぐに、アンコール遺跡群のあるシエムリアップに移動。窓から見るカンボジアは見渡す限り平らである、山一つ見えない、乾いた赤い大地が果てしなく続く。ヤシの木や、何か知らない灌木が少し水田の間に生えている。雨季には、メコン河が肥沃な水を運んできて、緑いっぱいの水田に変えるのだらうと想像している間に、最初の訪問地シエムリアップに到着、竹製品の仕入れに行く。そこで地雷で片足を失った夫婦(だろうか?)がミシンを縫っているのに会い、地雷という物が現実味を帯びて感じられる。

翌日はアンコール遺跡の見学をする。多分地雷で手足を失った人達の物乞い、又子供たちのしつこいみやげ物売りが多く、心を痛める。

翌日、水上生活を見ながら次の訪問地時間の船旅。湖の上に木を組んだ家でのれて漁獲の仕方、生活はずいぶんと変では牛、ブタ、にわとり等の家畜、野菜あたりの人達の生活は他より良いそうである。川は水運として利用され、底をすり、横を当てながら行き交う船で忙しい。凸凹の道路より水運の方が早く便利であるようだ。



バタンバンへ、ちょっとスリリングな9生活。湖から河口、そして川を上るにつわっていく。川はあくまでも土色、両岸や果物を栽培する所が増えてくる。この

その夜、孤児院を訪ねる。クメールダンスで私たちを歓迎してくれる。私も一緒にと誘われ小さな恋人達と踊った2時間、生涯忘れられない楽しい一夜、そして別れは悲しいものであった。彼等達はストリートチルドレン…この施設に引き取り、学校へも通わせる。彼等には鶏の世話とか、洗濯、掃除などの仕事も与える。半年から1年くらいまでのショートプログラムで、その後、状況が良ければ家族か親類へ返す。施設によっては、にわとり10羽とかさらにブタ子供1頭を持って帰らせる。帰った後の生活に役立てる為である。

他の女性の為の施設も同様のショートプログラムで運営されている。戦争未亡人、地雷で障害を負った人々、売春婦にならざるを得なかった人達に対し識字教育とか、機織り、縫製などの技能訓練をする。エンドレスの仕事である。それらをカンボジア人自身が運営実施している。彼ら自身が自分の手で国を建て直してゆくその姿に強く感動し、彼等の尊厳を傷つけずに援助してゆく事の大切さを強く感じた。もちろんセカンドハンドはそのような施設に援助し、また訓練後の生産活動に対しても技術指導、購入援助を実施している。

幸いこの国に食糧危機はないそうである。豊かな米、または魚、くだもの、そして素朴な国民性。戦争さえなければと思ひながら、この国を後にした。

SECOND
HAND



この子たちのために 新田美千子

今回3度目のカンボジア。町の様子が目まぐるしく変わろうとしていると感じました。多くの人々の生活は、まだまだ豊かではなく、明らかに貧富の差が出始めているのがわかります。

今回多くのNGO団体を訪ね、色々な方にお会いしました。中でも強く印象に残っているのが、識字リソースセンターがあるCWD A(女性の自立を支える施設)代表のセレイ・パルさんにお話を聞くこと



とができた事です。パルさんの毅然とした物腰、人は人のためにこんなにも美しく強く生きられるものと感動しました。セカンドハンドの活動をよく理解して下さり、その運営をボランティアのあるべき姿だと評価して頂きました。本当に嬉しい事です。

ミエット・ブン・コッマ孤児院に行ったことも忘れられません。2才から16才までの

子供たちが生活しています。彼等にとって着せてあげました。ピタリの子ない子もいました。違うのが欲しいと思

夕方には子供達がクメールダンスで迎

て行った洋服を一人ずつ大きさを合もいれば、なかなかこれと思うのがうだろうけれど、不満な顔も見せず、笑いお礼を言っています。こんなと、と思います。

えてくれ、やがてまるでディスコ大とがない事も忘れ、汗びっしょりに

なつこい笑顔で私を見ていました。人の優しさを求めているような顔、目。この子が言葉も通じない外国の子供

だとはとても思えず、わが子を膝に乗せて遊んだそんな時を久し振りに想い出していました。

この子供達の為に、私は何をしてあげられるのか、また何をしてあげたらよいのかと…。でも悲しい事に、

私には何の力も能力もありません。これが現実です。先に建てた学校の先生の

手紙の言葉に「私には何もお礼をすることができないが、この二本の手と十本の指で皆様の為にお祈りします」とありました。私も子供達の幸

せを祈りたい気持ちで一杯です。

このツアーにボランティア・スタッフの一人として参加

していた事を、こんなにも喜ばしく誇りに思うことができ、

この感動をスタッフの皆様にも感じて欲しいと思いました。



SECOND
HAND

私のカンボジア体験 嶋崎真知子

今回のスタディーツアーには私は第三者として参加させていただきました。事前に資料や本を読んだり、以前参加したことのある母親に話を聞いたり、自分なりに付け焼刃ではありますが、カンボジアに関する知識を頭に入れていきました。しかしそれでもやはり私は第三者でしかなく、このカンボジア体験は、それまでNGOの意味さえ正確に知らなかった私にとってはワンクッション置かれたものになりました。けれどそんな私にもこのスタディーツアーは大きな物を残してくれました。色々な事を感じ、考えさせられたのです。例えばボランティアのあり方について。そして「私は日本人なのだ」と実感させられたこと。



今回のカンボジアツアーで私は本当に色々な事を考えました。カンボジア人のたくましさ、おおらかさ(または大ざっぱさというのかもしれない)に触れ、普段の日本でのストレスだらけの生活を振り返りました。虐殺博物館に行き、人間の矛盾、愚かしさ、醜さを、残酷さを感じました。恐いのは、自分の中にも同じような要素、可能性があるということです。ただそういう状況に身を置いたことがないというだけで。

今回、感じたこと、考えたこと、それらをこれからどう生かしていくべきなのか、それが今の私の課題です。今回色々なことを考えるきっかけを作ってくれた母親とセカンドハンドに感謝したいと思います。

**SECOND
HAND**

セカンドハンド本部
からのお知らせ

総会&カンボジア報告会開催



9年度の事業、決算、10年度の事業計画の報告に併せて、支援先の現状も報告します。2月のスタディーツアーで撮影したビデオ映像を用意しています。ご期待下さい。

日時：4月12日（日）10:00～12:30
場所：香川県社会福祉総合センター7階

・支援者の皆様も是非ご参加下さい。

・参加費無料
・資料等、準備の都合がありますので参加ご希望の方はセカンドハンドにご連絡下さい。

連絡先：高松店 087-861-9928



セカンドハンド
4周年記念事業

活動報告展 &
チャリティー
バザー

日時：5月31日（日）

場所：丸亀町レッツ（高松市丸亀町商店街）
カンボジアの支援先の様子を写真で紹介。カンボジアの孤児院の子供たちが描いた絵も展示する予定です。



新しく入荷したカンボジアのクラフト品も販売します。詳しくは4月半ばに店頭に掲示します。

*4/1より有給スタッフとして斉藤真示さんを採用しました。当面は一人で本部事務局の業務を担当します。12日の総会で皆さんにご紹介します。

*平成9年度の決算は4月12日の総会の際に報告させていただきます。ご協力誠にありがとうございました。

Sale 情報

高松店

制服フェア開催中！

セカンドハンド高松店2Fで4月15日まで開催中！スカート、ズボン等サイズ色々あります。学生カバンもあります。

Sale 情報

フリーマーケット

田町商店街、恒例の楽市楽座が4月25日（土）26日（日）両日開催されます。商店街がフリーマーケットに！！セカンドハンドも出店します。

ボランティア募集！

あなたの知恵と時間と優しさをセカンドハンドで途上国の子供たちのために生かしてください。店番・接客・ディスプレイ・値段付け・在庫整理・事務・イベント企画など商店経営から国際援助までのあらゆる作業があります。あなたの得意な分野で協力して下さい。

●マクドナルド
トキワ街
N
4
YOU三越
田町商店街
●セカンドハンド 高松
●114銀行
観光通り
マルナカ
TEL 760-0053
高松市田町 12-4
TEL&FAX 087-861-9928
(営業時間 10:00～18:00)

TEL 700-0822 セカンドハンド 岡山
岡山市表町1-11-18
ファンク岡山1F
TEL&FAX 086-233-3673
(営業時間 11:00～20:00)
三井信託銀行
県庁通り
バスセンター ● 天満屋 ●
表町商店街
トマト銀行

セカンドハンド倉庫
(弘陽商会3F)
消防署
富陽カルチャースペース
山内GS
さぬき浜街道
競輪場 ● 県立体育館
TEL 760-0064
高松市朝日新町17-20
弘陽商会気付
TEL&FAX 087-823-5530
(作業時間 水曜 11:00～16:30
金曜 10:00～16:00)

●JR丸亀駅
TEL 763-0021
丸亀市富屋町55
TEL&FAX 0877-23-3421
(営業時間 10:00～18:00)
富屋町商店街
セカンドハンド 丸亀
旧国道11号
ダイエー ●